

筑波のかえる



高次脳機能障害友の会・いばらき

2023年~~秋号~~第60号



高次脳機能障害友の会・いばらき

〒305-0817

茨城県つくば市研究学園4-13-8

TEL 080-5901-9979

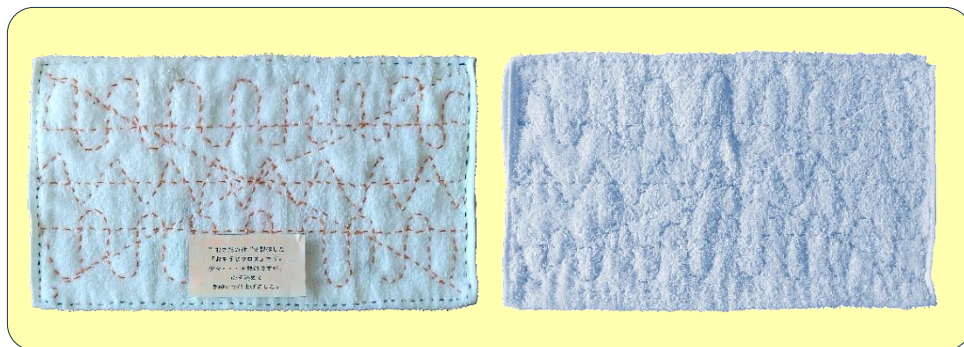
E-mail kojinouibaraki@yahoo.co.jp

H.P <http://nosonsohoibaraki.sunnyday.jp/>



《60号内容一覧》

はじめに	1
勉強会（オープンカウンセリング）	2
勉強会・リハビリ講習会	3
県南の広場	4
県北の広場	5
神栖の広場・賛助会員さんの声	6
関係機関訪問	
常陸太田市社会福祉協議会	7
多機能型生活支援センター「やまぶき」	8
がんばってる人	9
役員会よりのお知らせ・編集後記	10



今月の表紙は、常陸大宮市の障害福祉サービス事業所「おさだの杜」（以前、関係機関訪問で、紹介しました）に通所している方々が作った「お掃除クロス」と、ステンドグラス風の小瓶をプルメリアの花と一緒に並べました。お掃除クロスは、当会の当事者会員の大貫智美さんの作品も入っています。そして、大貫さんの作品を拡大したものが上の写真です。一針一針、丁寧に手縫いで仕上げられています。使うのがもったいないくらいです。

はじめに



皆様、いかがお過ごしでしょうか？ようやく酷暑と言われた夏が過ぎ、目に耳に秋の気配が感じられるよい季節となってまいりました。9月なっても暑さが続いたせいもあり、少し短めに感じられる今年の秋ですが、毎秋恒例でおこなわれていたバス旅行を復活させたいと思います。新型コロナウイルスが5類感染症に移行されたこともあり、久しぶりに企画を立てました。行き先はアクアワールド茨城県大洗水族館です。今回は会独自の企画ですので支援者の参加はあまり多くはありませんが、皆様とおしゃべりをしながら楽しく外出ができたらと思っています。案内をお送りしてありますので、振るってのご参加をお待ちしております。

さて、10月1日の日曜日、永田町にあるJA 共済ビルカンファレンスホールにおいて日本高次脳機能障害友の会「全国大会 2023 in 東京」が開催され、参加してきました。大会のテーマは”高次脳機能障害者支援法に向かって“です。私たち高次脳機能障害の当事者と家族にとって、とても意義のある大会になったと思いますので少し、ご報告したいと思います。

開始前の午前中には申込団体で臨時総会が行われ、本大会開催の経緯について日本高次脳機能障害友の会理事長の片岡保憲氏からご説明がありました。ここ数年のロビー活動やアメニティーフォーラムなどで高次脳機能障害者が抱える課題や現状、支援法制定の必要性を訴えてきたなかで、今では自民党、公明党各々に支援法推進のためのプロジェクトチームが生まれ活動されているそうです。訴えを法令化するには様々な段階があり「今は一番大切な時期、この時期に高次脳機能障害の当事者と家族の団結した訴えを示すことが必要なのでは」と、日本高次脳機能障害友の会顧問である渡邊修先生からご助言があったそうです。今年度は福島県での全国大会開催が予定されていましたが、その様な理由から予定を変更して東京での開催になりました。

大会プログラムの内容についてはここでは書ききれませんので、渡邊修先生（東京慈恵会医科大学付属第三病院教授）が最後に挙げられた5つの「高次脳機能障害者支援法の必要性」を下記に記しましたので、改めて会員の皆様とも共有出来たらと思います。

- ①「高次脳機能障害者」は「身体障害」と同じレベルの障がいとして認識されなければなりません。
- ②しかし「高次脳機能障害」の内容と対応方法が、社会にまだまだ浸透していません。
- ③社会とは、国民、医療機関・行政機関・保健/福祉機関・教育機関・就労（支援）機関等です。
- ④高次脳機能障害者とその家族の不利益を解消するために、まず、理念法としての「高次脳機能障害者支援法の制定」が必要です。
- ⑤ライフステージに沿った高次脳機能障害者支援の制度の構築こそが、当事者の当然の権利を保障し、家族の甚大な介護負担感を軽減させうると考えます。

最後には理事長 片岡保憲氏の閉会の挨拶とともに盛大な拍手が沸き起こり、「高次脳機能障害者支援法に向かって」の大会が終わりました。近い将来に支援法が制定されることを祈る気持ちでおりますが、これまでご尽力くださった日本高次脳機能障害友の会執行役員の皆様、関係者の皆様には心より感謝いたします。（滝沢）

勉強会（オープンカウンセリング）

小原昌之先生と浅野こす恵との「オープンカウンセリング」

～開かれた対話の水輪～

カウンセラー（茨城カウンセリングセンター 副理事長）： 小原 昌之 氏
クライアント（高次脳機能障害友の会・いばらき 当事者会員）： 浅野こすえ 様

猛暑日の続く 8 月 20 日の日曜日、土浦市立新治地区公民館において令和 5 年度の「勉強会」が開催されました。昨年に引き続き、テーマは「カウンセリング」についてです。当日は家族 12 名、当事者 9 名、そして高次脳機能障害支援センターから高松コーディネーターが参加してくださり、合計 22 名の方々が集って下さいました。



当会顧問でもある小原昌之先生は「忙しい毎日を送っている中でも心が豊かに深められ、多くのことに気づき学ばせてもらう、ありがたい機会がカウンセリングセッションの中で毎回あり、多くの力を与えてもらっている。」と仰っています。そのような対話の時間をぜひ皆さんと分かち合えたらというご提案で、「オープンな形でカウンセリングを行う」という、勉強会では初めての試みでした。最初に小原先生より勉強会についての趣旨をご説明いただき、それからこす恵さんとのセッション「オープンカウンセリング」が始まりました。

こす恵さんは月に一度ほど「カウンセリング」を受けに小原先生のもとへ通っています。ご自分の話をされる前にまず、2冊のノートをバックから取り出しました。ノートは小学生の頃から肌身離さず持ち歩いていて、家にある沢山のノートの中から持って来て下さいました。ノートには、後になって思い出すことや言わずに後悔したことなど、自分の想いを毎日書き留めているそうです。「このノートが私の一番のカウンセラー。このノートが無かったらどうなってしまうかわからない。ノートがあるから安心。不安があればあるほどノートが増えてくる。」と話されました。不安をひっくり返してノートに書いていると、書いた後はスッキリしているそうです。また、時々読み返すと「今は違うな～」と思うことも度々あるそうです。「今は昔、ついさっきも昔、今からでは手をつけられない過去」と思うそうです。他にも小原先生からの絶妙な掛け合いの中から様々なお話を聞くことができ、40分のセッションはあっという間に過ぎて行きました。

その後は集って下さった皆さんに感想を話していただき、小原先生とこす恵さんとでいただいた感想に関する感想をまたお二人で述べあっていただき、そうして1時間半の勉強会が終わりました。終わってみると、何か心地良い雰囲気の中に包まれたような、そんな想いになったのは私だけではないように思います。終了後も、まるで帰るのが惜しいようにあちらこちらに集まって、皆さんは話に花を咲かせていました。

（滝沢）

カウンセリングの感想

浅野こずえさんは淀みなく、途切れることなく次から次へと言葉がでてくるし、小原先生の話も理解し、自分の考えも加えて発言されていますし、どこが高次脳機能障害なのと思わせる感じでした。浅野こずえさんが、「その日の出来事、感じたことをノートに書いているこのノートが私の宝物、命でもある」と言われた。また本をよく読むとのことでもあります。カウンセリングのようすをみると、中身を拝見した訳ではないが、今の浅野こずえさんとは違うノートの中の幾人もの浅野こずえさんあるいはメルヘンの世界の浅野こずえさんが話をしているような感じを受けました。浅野こずえさんの知らない一面も知ることができました。



一般的にカウンセリングはグループカウンセリングと一対一の対面カウンセリングがあり、それぞれの個人個人の悩みや将来の進むべき道の迷いあるいは不安を和らげる効果があると拙い知識で記憶しています。

浅野こずえさんと小原先生二人のオープンカウンセリングは今までにない形の目新しい新鮮で座談的というのか雑談的というのか、こういうカウンセリングも有るんだと勉強になりました。(細川)

第1回リハビリ講習会

令和5年度の第1回リハビリ講習会が、9月17日(日) 県立医療大学で行われました。昨年度まではコロナ渦でもあったため、Zoomでの講習会が続きましたが、今年度は久々に対面での講習会となりました。



講師は、高次脳機能障害の研究では第一人者でもあり、医師でもある橋本圭司先生で、演題は「高次脳機能障害者の社会参加に向けて」でした。

橋本先生は、終始親しみやすい語り口で、お話をされました。日本の高齢化率はダントツで世界一であることや2025年には高齢者の5人に一人が認知症になる等、身につまされる内容から入り、途中、横文字や専門用語が多く出てきて、家族や当事者には少し難しい話題もありました。

最近のリハビリは、低次脳機能の土台の上に高次脳機能があると考え、まずは低次脳機能を整えるリハビリから始める必要があるとのことでした。そして、全身状態を整え、体と心の耐久力をつけてから、高次脳機能のリハビリを始めることが大切であると、強調されました。

最後に、家族の負担感や当事者支援には、長所に目を向けるポジティブな行動支援が必要であることなどにも触れられました。限られた時間でこれだけは伝えたいという橋本先生の熱意が伝わってくる講演会でした。

《おしゃべりサロン》

8月16日（水）ふれあいセンターながみねにおいて、第3回おしゃべりサロンを開きました。5名の方が参加してくださいました。

久しぶりに参加された方もいて「顔を合わせてお話するのは久しぶりなので、ホッとするひと時を過ごすことができた。」と仰っていました。話はやはり当事者のこと、年齢的な先の心配、特別ですが当事者の方も参加されたので、当事者会の事なども話しました。

この「おしゃべりサロン」は気兼ねなく、何でも話せる事がモットーです。コーヒーを飲みながらおしゃべりをして、普段の忙しさを少し忘れて癒される時間になればと思って開催しています。皆さま、振るってのご参加をお待ちしております。



《第2回県南集会》「ボウリング大会」

9月3日（日）龍ヶ崎市にあるイトーヨーカ堂隣「スターライクボウル」にて、久しぶりのボウリングを皆さんで楽しみました。このような集会は、コロナ禍以降もなかなか行うことは難しかったのですが、もうそろそろ（^ω^）・・・ということで、当日は当事者10名、家族9名、総勢19名の方々が参加され、大いに盛り上がりました!!

ご存知の方も多いかもかもしれませんが、ボウリング場は障がいのある方でも楽しめるように様々な工夫があります。ガターなしのボウルウォールレーン、そしてボウルスライダーを使用すれば、ボウルを投げにくい車椅子の方や腕力が弱い方でもゲームが楽しめます。



最初に当事者の方達にあみだくじを引いていただいて、4チームに別れてゲームがスタート。各チームそれぞれから楽しい笑い声が場内に響いていました。今回は1ゲームだけでしたので1時間ほどでゲームセットになり、楽しいひと時はあっという間ですね。「来年もぜひボウリングをやって!」というご要望が多数でしたので、来年は2ゲームに

チャレンジ出来たらいいですね。



3つの集会が開催されました。ご報告します。

令和5年度 第3回県北集会 8月6日(日) 13:30~14:30

場 所 : 水戸市福祉ボランティア会館 大研修室

内 容 : 小さな図書館 ~本を楽しもう~

参加者 : 10名(当事者1名、家族2名、支援者4名、学生3名)

今回は「本」を楽しみました。

用意された10数冊の本の中から読んでみたい

(見てみたい)本を選びました。

じっくり一人で読む(見る)方…

他の方と話しながら楽しむ方…

久しぶりに本を開いたという方やこんなジャンル

初めてと手に取る方もおられました。

本を通して、ゆっくりとよい時間を過ごしました。



ミニレクでは、学生さんによる
「食べる前の準備体操」が行われました。



令和5年度 第2回家族の集い 7月21日(金) 10:00~12:00

場 所 : 水戸市福祉ボランティア会館 中研修室

参加者 : 8名(家族3名、支援者3名、県支援コーディネーター2名)

令和5年度 第3回家族の集い 9月22日(金) 10:00~12:00

場 所 : 水戸市福祉ボランティア会館 中研修室

参加者 : 2名(支援者1名、県支援コーディネーター1名)

神栖の広場

集会では、親亡き後のサポート、利用できる福祉サポートが一番の関心事です。支援センターで、神栖・鹿島地区の施設を調べて頂いても、利用できる施設はまだ少ないのです。今は利用を必要と感じていなくても、福祉とつながっていることが大切で、当人が拒否していても家族が関わっていれば、突然の事が起きた時、当人の日常に大きな変化がなく対応できるとの滝沢会長の話に納得しました。



タイムリーなことに、社協主催の10月の「地域ネットワーク勉強会」は、～安心できる暮らしを叶えるグループホームの取り組み～が課題で、実例を取り上げての勉強会なので参加を予定しています。私事ですが、股関節手術のため約3週間留守にしました。気がかりは息子の生活だったのですが、姉、兄の連携で大きな不自由もなかったようです。本人も姉兄に感謝しながら、洗濯、食器洗いと出来る事は生活の一部に取り入れるようになりました。

どうも私が自立を足止めしていたようで、娘曰く、私が手をかけ過ぎていたそうです。私の入院も我が家では、福と出たようで。めでたし、めでたし!!

《神栖集会の報告》

7月	相談者1名	会員3名	支援センター	(市毛 CN)
8月	相談者1名	会員3名	支援センター	(市毛 CN)
9月	相談者なし	会員4名(滝沢会長)	支援センター	(田中 CN)

《賛助会員の声》

私が高次脳機能障害友の会・いばらきの賛助会員として仲間に加えていただくようになってからどれくらい経つでしょう。

いつも送られてくる会報誌「筑波のかえる」を楽しみに拝読しています。それというのは紙面から、当事者の皆さん、家族会の皆さん、支援サポートスタッフの方々の生き生きとした姿や笑い声を感じることができるからなのです。例えば、「がんばってる人」のコーナーでは、素敵な笑顔の写真と共に、ご家族の方やサポートスタッフさんの協力や見守りを得ながら、リハビリや様々な作業に励んでいる様子に出会えます。どの回の当事者さんからも明るく無理なく、しかし懸命に取り組んでいる姿が伝わってきます。その一人ひとりが自分の今持っているもの(力)を十分に発揮し、生かそうとしていることが私の心に響いてくるのです。

自分自身を省みた時に、果たして近頃の私は懸命に何かをやるということがあったでしょうか?一日のうちでどれ位の時間笑顔で生活しているだろうか?持てる力(大したものではないが)を出し惜しみして、適当なところで済ませることが多くなったなあと感じたりしています。樂することを優先した手抜きな生活からは充実とか満足という感覚は生まれてきませんね。会報誌を開くと自分も前向き思考になれるのです。(大げさではなく)感謝。

ここ三年半はコロナ禍で自粛を強いられ、各地区における家族会や当事者会も思うような活動ができなかったことでしょう。交流の場が遠のいてしまったことで、不安を覚えたりやる気が失せてしまうようなこともあったかと思えます。今もコロナがなくなった訳ではなく油断は禁物ですが、少しずつ活動も始められたとのこと、良かったと思います。おしゃべりサロンや各集会を通して仲間と繋がり、お互いに理解しあえる場所は誰にとっても大切だと思います。会の良き働き、活動を心から応援しています。

賛助会員 小故島和子

関係機関訪問 ②④

常陸太田市社会福祉協議会

住所 常陸太田市稲木町 33

電話 0294-73-1717



◇ 常陸太田市の田園地帯を行くと、白い波打つ屋根が印象的な建物が見えてきます。それは社会福祉協議会が入る「常陸太田市総合福祉会館」でした。お話は、相談支援専門員の深澤大さんにお聞きしました。深澤さんは、前もって資料を準備され、それをもとに、とても分かり易い説明をしてくださいました。

◎ 深澤さんの所属する「指定相談支援事業所」では、4名の支援員が相談にあたっています。そこで「障害はあるけど社会に参加したい」「福祉の制度を知りたい」「親が高齢なので障害のある子供が心配」等、様々な生活全般の相談を受け、障害のある方も地域で普通に暮らし続けるための「つながり」を作る仕事をされています。



◎ その他、自宅で生活をする障害のある方々への家事援助や身体介護等、生活全般にわたるサービスを提供する「居宅介護事業」。買い物や社会参加等の外出にガイドヘルパーを同行させる「移動支援事業」。重度の障害をもつ方々への生活介護を行う指定生活介護事業所「ゆめの樹」。そして、発達に心配のある子供たちへの指導・訓練を行う児童発達支援事業所「あいあい」等の事業も展開しています。

◎ 深澤さんたちが関わる高次脳機能障害の方は現在2名おられます。お二人とも働き盛りの男性の方で、就労や運転を希望されているそうです。受傷してまだ1年ほどなのでどちらも大変な時期ですが、本人のできることを探して「ほめる」ことを大切にしています。そして意欲を喚起しステップアップしていくことを目標にしています。

深澤さんの名刺に似顔絵がありました。まさにお顔そのままの温かい包容力のある方でした。深澤さんのモットーは「人間、必ずいつかは障害者になる」ということで、「誰もみな同じ」そんな思いで支援にあたっているそうです。高次脳機能障害に関しても、とても関心を持たれており、様々な研修会や勉強会に積極的に参加されているとのことでした。頼もしいです。



関係機関訪問 ②⑤

多機能型生活支援センター「やまぶき」

住所 常陸太田市山下町1696-3

電話 0294-87-8001



◇ 常陸太田市の中心街で、駅の近くに「やまぶき」はありました。鉄筋コンクリートの2階建ての建物です。以前は病院だったとのこと。広々とした玄関スペースがゆったりとした雰囲気醸し出していました。その一角で、管理者の綿引崇さんと部長の木村亮さんからお話を伺いました。お二人とも終始にこやかに、利用者さんたちへの接している様子が目に浮かぶようでした。

◎ 「やまぶき」は、就労継続B型・生活介護の多機能型施設です。「生活介護」では、仕事に向けての基礎作りをします。そして、「就労継続B型」では、仕事をする機会の提供や自立に向けた取り組みを行っています。さらに、「就労移行支援」では、就労に向けての仕事の訓練、面接や就職試験の練習等を行っています。素晴らしいのは、多機能型なので自分に合った段階から取り組むことができるということでした。



◎ 開設して5年目とのことですが、地域とのつながりがとても強いことに驚きました。地元の企業から仕事の依頼を受けることはもちろん、警察署や常陸太田駅のゴミの回収、個人のご家庭の庭の管理、家庭ごみをごみ集積場までもっていくことが困難な方のお宅のごみの回収や粗大ごみの運搬など、本当に様々な地域密着の活動を行っています。

◎定員は、40名で、高次脳機能障害の方が1名おられるそうです。19歳の方で、就労継続3日、生活介護2日という変則的ですがその方に合った活動をしているとのことでした。柔軟な対応をしてくださることがよくわかります。



お話の後に、綿引さんが館内を案内してくださいました。ホワイトボードにはそれぞれの利用者さんの1日のスケジュールが掲示してありました。館内では栗の皮むき、落花生の殻むき、googolの組み立ての作業をしていました。また、農作業班は、やまぶきで所有する水田で稲刈りを行っているということで、作業の様子を綿引さんがスマホで見せてくださいました。さらに、月に1回はイベントを企画するとのこと、3グループに分かれて行ったお出かけの時の様子が写真とともに掲示されていました。利用者さんたちの表情がとても明るく、毎日の生活がとても充実していることが伝わってきました。

優しい笑顔が素敵です!!

牛久市 佐藤 陽介さん



◎陽介さんは、生まれてから 18 歳まで福島県白河市で過ごしました。支援学校を卒業後、牛久市に移り現在は、牛久市の閑静な住宅街に住んでいます。ご両親と陽介さんの 3 人暮らしです。陽介さんとは、ご自宅近くのファミレスでお会いしました。心配そうに見守るお母さんも一緒でしたが、ご本人は終始にこやかに、そしてゆっくりですがしっかりとお話をしてくれました。

◇陽介さんは小学 3 年生の時、自転車で道路横断中に乗用車にはねられました。そして 70 日間、意識不明の重体の状態が続きました。それはご家族にとっても長くて辛い期間でした。しかし、70 日目に、びっくりすることが起こりました。陽介さんが目覚めたのです。それは何と、病院の玄関で対面した愛犬の「ゴー」が、車いすの陽介さんに飛びついたときなのだそうです。陽介さんと「ゴー」の間の強い絆を感じさせるお話です。(お母さんからのお話)

◇陽介さんの日常生活についてお聞きしました。月、水、木の週 3 日は社協運営の知的デイ「わくわく」で、軽作業をしています。お給料は毎月 15 日に現金でいただくそうです。全部は使わず、貯金箱に貯めていくのも楽しみの一つです。また、火、金の週 2 日は、やはり社協運営の身障デイでボッチャやフライングディスク等のスポーツや、書道などを行っています。9 月の県南集会ではボウリングにも挑戦し、体を動かすことも楽しみの一つだそうです。

◇最近のご両親も高齢になってきたので、休日は近くのスーパーやコンビニなどに買い物に行くことが多くなりました。(以前は家族三人でよくドライブもしました) 買い物に行って、自分が好きなパンや菓子、ジュースやビールなどを買うのも日常の楽しみになりました。今年は猛暑が続いたので、「ビールがとてもおいしかった」と、目を細めて話してくれました。



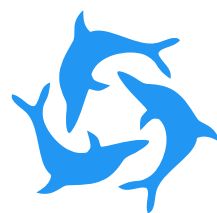
写真の笑顔からも想像できると思いますが、陽介さんはとても優しく両親思いの方です。作業所から帰ると、ご両親に代わって庭の花への水やりをしたり、ご両親の肩や腰のマッサージをしたりしてくれるそうです。

最近色々なことを考えることが多くなり、ご両親が高齢になっていくことも心配なのだそうです。陽介さんとしては、今の生活をずっと続けていけるように頑張っていきたいと頼もしく語ってくれました。

お知らせ

今後の行事予定（10月～1月）

- ◇家族会交流室 ★11月10日(金)★12月8日(金)★1月12日(金)
- ◇県北地区 県北集会 ★12月10日(日)
家族の集い ★11月17日(金)★1月19日(金)
- ◇神栖地区 神栖集会 ★10月25日(水)★11月22日(水)★12月27日(水)
- ◇県南地区 県南集会 ★11月3日(金)
おしゃべりサロン ★10月19日(木)★12月20日(水)
- ◇当事者会 ★11月26日(日)
- ◇役員会 ★10月17日(火)★12月19日(火)
- ◇ボッチャ大会（作業療法士会土浦医療圏との事業）★10月29日(日)
- ◇県との懇談会(役員) ★10月30日(月)
- ◇バス旅行（大洗水族館）★11月19日(日)



役員会報告

- 8月8日(火) (1) 各集会、交流室、当事者会等についての報告
(2) 今年度の事業について
- 9月19日(火) (1) 各集会、交流室、当事者会等についての報告
(2) 今年度の事業について
(3) 県との懇談会について



交流室からの報告

- 7月14日 相談者3組(6名) 会員5名
支援センター⇒高橋副センター長・市毛 CN
- 8月11日 相談者5組(9名) 会員5名 賛助会員1名
支援センター⇒高橋副センター長
- 9月8日 台風のため中止

編集後記

会報の「関係機関訪問」の記事を書くため、県内の社協さんを訪問するようになりました。振り返ると、13か所の社協さんにお話を伺っていました。それぞれの理念（根本は同じだと思いますが）や地域性等によって、事業内容にも違いが見られ、特色があることが分かりました。しかし、共通するのはどの社協も「地域福祉の要である」ということです。訪問先を地図に記してみました。限られた紙面では伝えきれない事が残念でたまりませんが、できるだけ偏りの無いよう訪問していきたいと思っています。(石)

